

たちみおの

長かつたつや寒か つかのあつとあうた

雨とびのたうみう子じさいはどろしりりり

たうう 裏に背丈より高のまじさいの古れ

かぶくあうて何年にもなる 子の若おあとも

いそぎの

今迄をきつ着た甲で老わこまぬ ありと

ろ水一着うぬ候にうぬ もろ老わかこあふた

手隠け着るぬたうう

せうい庭は花たさいのけい 部屋の中も

花かあふぬたうぬ その頃の空をながめてあよ

う ふううふふふふふふふふふふふふふふ

うい

でもくひよつとしてあけたり もう一履

あうころうのほんのうしでいにかう 花とを踏

としてあうい

ふちあみいばいい くまの下ううかう陣た

咲き一着にまか花が咲くとつやが終るとあう

毎年咲いてくはるから一本でいい

あうはかりスマスターだ

うつせふかぢんで ひとあかた 毎年寒し  
時咲く

冬してすかぬだ

すゆれの移るいけんで 毎年種を

地面い、げいほ ときちし くる

こんたことまゝのうろく 草野の葉は

か 草のいりうち 一歩大終るあま

なり

いつも葉をまつのげふいと 人は

時物といふ新芽の

製紙

たてあお山の絵を びりりきと

さすなごか と 日か 中々くる

2019  
8/1